

# 地域がつくる子ども居場所

「子ども食堂」などの取り組み

## 子どもたちを地域で支える

県は、子どもたちが健やかに成長するために、子どもや家庭の困り事に気付き、必要な支援につなげる場が身近にあることが大切です。そうした活動に取り組む団体を、大切な社会資源として地域で支え、協働していくことが求められています。

県は、地域に根差して子ども居場所づくりなどに取り組むNPO法人や社会福祉法人など、民間団体の活動を支援し、子どもの居場所づくりを進めています。

今回は、身近な地域の人とつながれる子ども食堂などの活動を紹介いたします。

## 子ども食堂の広がり

子ども食堂は、無料または1000〜3000円程度の料金で利用できる集いの場所として、近年、孤立する親子や子どもたちの居場所、さらに地域交流の「場」として注目を集め、全国に広がってきました。

県内には、およそ140カ所の子ども食堂がありますが、活動のない地域や、新型コロナウイルス感染症の影響で活動を休止している地域もあります。

県は、こうした状況を踏まえ、昨年度から、子ども食堂を新たに立ち上げる場合などに必要な経費を補助し、活動の広がり支援しています。

## 子ども食堂をもっと身近に

令和2年度には、県と県内の子ども食堂運営団体が協働し「みやぎ子ども食堂ネットワーク」を立ち上げました。ここでは、子ども食堂に関する情報発信や、運営相談、寄付やボランティアの募集などを受け付けています。

活動中の子ども食堂についての情報は、専用サイトから検索できるほか、お住まいの市町村へ問い合わせることで調べることができます。

この機会に、お近くの子ども食堂に目を向けてみませんか。

みやぎ子ども食堂ネットワークのサイトはこちら



## 地域における子どもの居場所づくり ～実際の活動例～

県と社会福祉協議会や社会福祉法人などが地域の団体と連携し、子どもの居場所づくりを進めています。

### 色麻町社会福祉協議会(色麻町)

町役場や小中学校・高校と協力し、月に1回程度、テイクアウト方式の子ども食堂とワークショップなどの交流イベントを同時開催しています。町内飲食店の手作り弁当を配布するとともに、地域の大人と一緒にキーホルダー作りやしめ縄作りを行うなど、大人と子どもが楽しく過ごせるようなイベントを実施したことで、さまざまな角度から子どもを見守ることができる地域づくりの第一歩となりました。



### 社会福祉法人未来福祉会(仙台市)

月に1回、学校終わりの時間に合わせて、認定こども園を開放し、栄養士が考案した手作り弁当を配布する、テイクアウト方式の子ども食堂を実施しています。児童館や小学校、地域の町内会などの協力により周知を重ねたことで、次第に参加者も増えていきました。認定こども園を開放することで、弁当を取りに来た子どもたちが遊べる場所となったり、保護者が保育士に対し、子どもについての悩みを相談する場となるなど、子どもと大人、双方が「つながれる」場所となりました。



「みやぎ子ども食堂ネットワーク」を運営しているNPO法人ふうどばんく東北AGAIN(あがいん)の高橋さんと富樫さんにお話を伺いました



NPO法人  
ふうどばんく東北AGAIN  
理事 高橋 尚子さん(右)  
理事 富樫 花奈さん(左)  
富谷市成田8丁目1-1  
☎022(779)7150

## 困っている人の力になりたい

私たちの団体は、食べられるのに廃棄されそうな食品を、食事に困っている人に提供するフードバンクとして、平成20年に設立しました。

多くの方々の協力を得て、徐々に活動規模を拡大しながら、設立以来ずっと続けています。

私たちは、以前関東で働いていましたが、地元に戻ったのを機に、この団体のことを知りました。理念に共感し活動に協力していくうちに、団体の職員となり、現在は理事として活動の中心を担っています。

関東で働いていた頃、周りに頼る人がいない中で、働きながら子育てする大変さを実感していました。そこで、食を通じて子育て世代の力になりたいと考え、フードバンク事業に加え、平成31年に子ども食堂を始めました。

## 子ども食堂の活動

コロナ禍の前は、地域の方々のお手伝いをいただきながら、子ども食堂を月に1回開催し、約100人ではんを食べていました。

現在は、希望する方にお弁当や食材を届けたり、定期的に子ども向けのイベントや、プログラミングなどの教室を開催



月に2回有料で開催している  
絵画教室の様子

この日は企業から  
餃子弁当の提供を受け、  
子どもたちにお届け



したりするなど、コロナ禍でも、地域の子どもたちとつながることができるよう活動しています。

## 子ども食堂と支援者をマッチング

今年度は県から「みやぎ子ども食堂ネットワーク」の運営を受託しています。この事業では、県内の子ども食堂の運営団体の拠点として、子ども食堂間の交流や広報啓発、人材や食材のマッチングサービスなどを行っています。

具体的には、個人や企業など支援者の「寄付したい」「お手伝いしたい」といった声を子ども食堂につなげたり、子ども食堂の「こういう食材が欲しい」などの希望を、支援者につなげたりしています。また、まとまった量の食材が集まったときは、他の子ども食堂や、子どもの居場所づくりに取り組む団体にも配布しています。

子ども食堂の多くはボランティアなどによる小規模の団体が多く、寄付金や善意でいただく食品などで運営しています。支援は常に継続されるとは限らないので、理解や協力を得られるよう自ら発信し、行動するようになっています。

## みんなが訪れたいくなるような場所に

親の仕事など、さまざまな事情から食を一人で取る子どもも多くいますが、わいわいがやがや、みんなで食べる食事って、一人で食べるよりずっとおいしい



絵画教室終わりにみんなでパンチャリ

いし、楽しいですよ。みんなで食事したり、遊んだりすることで、子どもの居場所ができると思います。子どもたちが楽しく過ごせることを一番に心がけており、ここを「テーマパークより楽しい」と言ってくれる子どももいます。

子ども食堂は子どもだけのものではなく、地域コミュニティの場でもあります。子どもやその家族、地域の方々など、いつでも誰でも訪れていただける場所として、入り口を開けています。

そのおかげもあって、毎日のように色々な方が寄付を届けてくれます。遠方から食材を届けてくれる方がいたり、寄付してくれる中学生がいたり、これまで温かい善意をたくさん受けてきました。これからも支援の輪を広げて、人が集まるコミュニティの場としていきたいです。